

# すわみつえ通信

No.323 2024年7月15日

日本共産党鴻巣市議会議員  
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7  
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151  
携帯: 080-5039-2785  
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp  
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け  
たい声がある 声をかたちに

## 『自治体要請キャラバン』全県63市町村でスタート

鴻巣市役所での懇談に参加



鴻巣市役所での懇談に参加された  
各分野の皆さん=7月12日

今年で31年となる埼玉県社会保障推進協議会による「自治体要請キャラバン」の懇談が7月9日から7月19日まで、全県63市町村で行われています。鴻巣市は7月12日(金)、鴻巣市役所で行われ参加しました。

懇談内容は、社会保障分野の「医療」「介護」「障害者」「子育て・保育」「生活保護」で、国・県・市町村に向けて要求をまとめ、要請します。

12日は各分野から18名が参加し。市役所からは13名が対応しました。

今年は特に物価高騰からいのちと暮らしを守るため、「国保税の引き下げ」「介護保険料引き下げ」「小中学校給食費無償化」を要請しました。

## 保育士さんから保育現場の不安を訴え、保育士の配置を増やすことが先決と要請

現場の保育士さんからは、鴻巣市が試行で取組む「誰でも通園制度」は、保育の現状から大変不安があると発言がありました。「初めて保育園に来た子が慣れるまでどのくらいかかると思うか?」という質問に、市の担当者は「はじめは泣いている。2~3日かかるか」と答えました。発言者は「早くても2週間、遅い子は2~3か月かかる。保育士は『入園したては事故がある』を合言葉に保育している。保育士の配置を増やすことが先決」と、短い時間ながら担当課職員と直に懇談し要請しました。

### 水防訓練に参加

7月13日(土)に、熊谷市見晴町地先の荒川左岸堤防において、熊谷市水防団、行田市水防団、鴻巣市水防団、荒川南縁水防団による

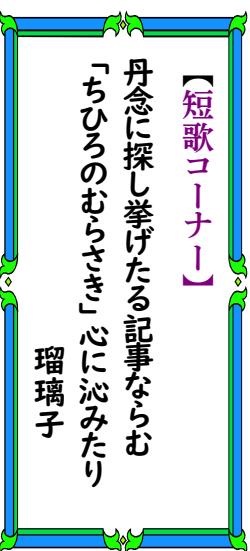


水防訓練が行われました。

堤防決壊を防ぐ訓練と埼玉県防災航空隊と熊谷市消防本部のヘリコプターによる救出救助訓練が実施され、荒川北縁水防事務組合議会議員として参加しました。雨が心配されました暑い中の訓練となりました。前日は松山市で土砂災害の報があったばかりであり、緊張感を持ち訓練を見させていただきました。



鴻巣市の防災服を  
着て訓練に参加



【短歌コーナー】

丹念に探し挙げたる記事ならむ  
「ちひろのむらさき」心に沁みたり  
瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口



## 田村日本共産党委員長「野党共闘再構築を」

日本共産党の田村智子委員長は7月13日、党創立102周年の記念講演を党本部(東京都渋谷区)で行った。「政治を変える力は市民と野党の共闘にある」と強調。次期衆院選に向けて「立憲主義を守れとの原点に立ち、市民と野党の共闘を再構築しようではないか」と訴えた。

先の東京都知事選で立憲民主党と共に支援した蓮舫前参院議員が敗れたことに関しては「残念だが、市民と心を通わせて戦う選挙になったことは大切な財産になる」と語った。 (時事通信 7月13日付)

## 日本共産党鴻巣市議団・市委員会 議会報告・市政懇談会のご案内

日時 7月27日(土) 14時～  
会場 鴻巣市中央公民館 会議室  
内容 6月議会報告  
9月議会に向けて



\*お誘い合わせてご参加ください  
皆さんのご意見・ご要望をお寄せください



2024年5月15日 市政懇談会



## 絵本の力



絵本「悲しみのゴリラ」は、最愛の母親を亡く

した少年と彼に寄り添うゴリラの物語である。「いつになったら、かなしくなくなるの？」。数々の少年の問いに、ゴリラは「ママがずっといっしょにいると わかったときだよ」などと悲しみを分かち合うように答える  
▼鹿沼市出身のノンフィクション作家で小紙の客員論説委員を務める柳田邦男(やなぎだくにお)さん(88)が先日、宇都宮市で開かれたイベントで来場者に薦めた作品だった▼柳田さんは二十数年前から絵本の普及活動に取り組んでいる。きっかけは50代後半に次男を自死で失ったことだ。喪失感の中で立ち寄った書店で、かつて次男に読み聞かせ

た絵本に気付く。「10年、30年たっても店頭に並ぶ」と息の長さに驚いた▼そこで柳田さんはある一冊を手にする。いじめられてたよだかが、死んで星になる宮沢賢治(みやざわけんじ)の童話「よだかの星」だった。「テーマは孤独や孤立、疎外。改めて読むと文学そのもの」と絵本の力を見直した▼「絵本は人生で3度読むべきだ」と訴える。幼少期、子育て期、中高年期。絵本が秘める文学性や哲学性を感じ取れる大人になってほしいと願う▼海外作の「悲しみのゴリラ」は宇都宮市出身の作家落合恵子(おちあいけいこ)さんが訳した。「大人にも時にゴリラのような存在が必要」とつづる落合さんのメッセージも奥深い。 【下野新聞(しもつけしんぶん) 6月28日付】

～文中の宮沢賢治『よだかの星』は次号以降に掲載します。～